

設計前に製品コストを 創り込む原価企画

～ VEで変動費・モジュール設計で設備・間接固定費の適正原価を実現する ～

(旧名称：設計前にコストを創り込む原価企画)

開催日時	2025年10月28日(火)～29日(水) 2026年 3月 5日(木)～ 6日(金)	オンライン 東京会場	各回とも2日間 10:00～17:00
対象	<ul style="list-style-type: none"> コスト改革・原価企画の躍進に携わる方 コストダウン実現を目指す、開発設計・開発購買・生産技術のマネジャー・スタッフの方など 		
講師	大塚 泰雄 氏 JMA専任講師 (株)MEマネジメントサービス 専務取締役	参加料(税込) 法人会員：118,800円/1名 会員外：129,800円/1名	<small>※参加料にはテキスト(資料)費が含まれています。 ※昼食の提供はございません。(各自でご用意ください。) ※法人会員ご入会の有無につきましては以下URLにてご確認ください。 https://www.jma.or.jp/membership/ ※お申し込みページ内参加申込規定を確認・同意のうえお申し込みください。</small>

本セミナーのねらい

製品の価格、すなわちその背後にある製品原価は、総合商品力の重要な構成要素です。新製品がねらった競争力を発揮するには、コストの70%が決まる、製品企画・開発段階にさかのぼって原価を創り込む「原価企画」活動が必要不可欠です。

その目標原価を創り込むツールには、変動費低減の“VE”、固定費低減の“モジュール設計”があります。本セミナーでは、原価企画・VE・モジュール設計のステップを事例、演習を交えながら学んでいただきます。

原価企画活動の展開プロセス

Plan	1. 目標売価の設定 ・市場価格・希望価格・競合価格
	2. 目標利益率の設定 ・低価格政策ガイドライン
	3. 目標原価の設定 ・基本費・材料費・加工費
	4. 機能・余地分析 ・ポートフォリオ分析 ・機能分類
	5. 目標原価の設定 ・製品レベルの目標原価設定 ・製品別・目標原価
	6. 目標原価の割当 ・コストダウン対象品番指定
	7. 改善計画書の作成 ・コストダウン計画
Do	開発設計コストダウン 1. 製品設計 ・VE、VA改善 2. 工程設計 ・VE改善
See	1. 目標原価達成率 ・CAD見積り 2. コストダウン達成率 ・材料費、加工費見積り

参加者の声

- ・VE推進のために共有化しようと思った。
- ・コストテーブルより源流で使うCAD見積の考え方は良い参考になった。
- ・機能分類、整理の仕方を学べてよかった。

■ プログラム

2日間 10:00～17:00 [昼食] 12:00～13:00

1 まずは製品コストダウンの可能性を追求する

ーコストダウン余地分析で目標原価を決めるー

- (1)まずは改善対象製品の原価データを収集する
- (2)設計改善対象製品の選定方法とは
- (3)製品のコストダウン余地分析

練習問題

2 製品コストを創り込む原価企画の目的と進め方

ー事前に原価をシミュレーションするー

- (1)原価企画の意義と目的
- (2)原価企画の実態と進め方
- (3)デザインレビューと原価企画
- (4)目標売価・目標利益率の設定

練習問題

3 CADで行う設計のコストシミュレーション

ーCADから直接見積原価を設定するー

- (1)コストを見積る種類と粗さ
- (2)原価企画に強力な武器となるCAD見積
- (3)コストテーブル作成のステップ
- (4)コストテーブル事例とCADへの応用

練習問題

4 機能・余地分析から目標原価設定を設定する

ー理想原価を踏まえ目標原価を設定するー

- (1)製品のあるべき姿を追求する
- (2)製品の機能・余地分析
- (3)最適目標原価の設定と割当方法
- (4)コストダウン評価の考え方

練習問題

5 感性機能を取り入れたコストダウン実現の価値工学(VE)とは

ー製品機能から最適構造を追求することの重要性を知るー

- (1)価値工学(VE)とは何か

6 アイデア無くして製品価値向上は達成できない

ー1つの製品にアイデアを1000件出す実践のステップー

- (1)アイデア発想の目的とポイント
- (2)アイデア発想効率的6つのステップ
- (3)使えるアイデアに育てるには

練習問題

7 モジュール化で変わる設備・間接固定費の適正化

ーあるべきモジュラーデザインの進め方ー

- (1)モジュール化の歴史と6つのモジュール化方式
- (2)着眼大局理論で進めるモジュラーデザイン
- (3)モジュラーデザインで会社の何がかわるか
- (4)製品モデルの展開と製品ラインアップ表

練習問題

8 モジュール化可能性分析により事前に成果を予想する

ー事前に目標設定の重要性を知るー

- (1)事前に行うモジュラーデザイン可能性分析
- (2)製品仕様から可能性を追求する“製品仕様分析”
- (3)コストから見た最適ラインアップの追求
- (4)部品種類数から可能性を追求する“部品機能分析”

練習問題

【VE改善設計・機能分析ソフト、モジュール化分析ソフト紹介】

※プログラム内容は変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

